

大日本地震史料蒐集ノ事業ハ委員故關谷理學博士ノ創意ニ出テ本會調查事業ノ一トシテ去明治二十六年七月以降田山實ニ囑託シテ材料ノ蒐集ニ從事セシメ爾來同委員ハ銳意熱心以テ此事業ヲ督勵セラレシカ同二十九年一月不幸ニシテ易簣セラレタリ因テ本員之ヲ繼承シテ其監督ノ任ニ膺リ昨三十五年五月ヲ以テ完成ヲ告クルニ至レリ

本書收ムル所ハ允恭天皇即位五年(西曆四百十六年)ヨリ慶應三年(西曆千八百六十七年)ニ至ルマテ千四百五十一年間ノ日本全國(臺灣及琉球ヲ除ク)ニ關スル地震記錄ニシテ約四百六十種ノ書類ヨリ引用蒐集セルモノニ係レリ而シテ本書ハ永ク地震學上ノ重寶トナルヘキモノニシテ實ニ故關谷委員ノ紀念書ト稱スヘキモノトス但同委員ノ生前ニ於テ大成ヲ見ルニ至ラサリシハ甚タ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ今本書ヲ提出スルニ方リ聊其顛末ヲ略記シ以テ之ヲ報告ス

明治三十六年五月二十八日

委員 理學博士 大森房吉

震災豫防調查會長 工學博士 眞野文二殿

大日本地震史料蒐集終結ニ付上申書

大日本地震史料蒐集ノコトハ、去明治二十六年七月ヨリ本會ノ一事業トシテ、故關谷委員ノ監督ノ下ニ創置セラレ、同氏易簣ノ後ハ、大森委員監督シテ事業ヲ繼續セラレタリ、而シテ終始本員ヲシテ蒐集ノ任ニ膺ラシメラレキ、其間約十年ノ星霜ヲ閱シ、採蒐シタル材料ハ積テ二十二冊、二千〇五十六枚ノ多キニ及ベリ、然レドモ載籍ニ缺存アリ、孔壁ノ遺書、蓋、亦世ニ尠シトセズ、未ダ之ヲ以テ古今ノ地震ヲ網羅シタリト謂フベカラズト雖ドモ、討查ヲ終リシ時代ハ一千四百五十餘年ニ涉リ、大小地震ノ總數約二千ヲ得タリ、猶遺リタルヲ拾ヒ漏レタルヲ補ハシ、大海ノ遺珠固ヨリ少ナカラザルベケレド、一旦緒ニ就ケルヲ期トシ、茲ニコノ事業ヲ終結セントス、因テ今本書全部ヲ整理シ、之ヲ呈出スルニ臨ミ、其内容ニ就テ聊カ所感ヲ陳述スベシ、

地震ト記録 記録ノ存否ハ、地震ノ有無ニ影響シ、記録ノ完全セル時代ハ、地震モ隨テ明瞭ニ記サルタレド、之ニ反シタル場合ハ、必ず其傳ヲ失ヘルヲ例トセリ、本書中多ク京都地震ノ記載セラレタルハ、主トシテ其地方ノ記録ノ比較上完存セルヲ以テナリ、天正十八年以後、江戸



ノ地震ニ於ルモ亦然リトナス、

地震ト國別 記録ノ存セザル地方ハ、地震ノ傳モ失ヘリト雖ドモ、強震以上ノ震災ハ、其震源地ヲ距ルコト或距離マデハ、總テ感ズルモノナレバ、學理上ヨリ之ヲ推定スルハ當然ノコトナルベシ、殊ニ甲丙兩國ノ地震ニ、ソノ中間ナル乙國ノ感ゼザルノ理ナケレバ、假令記傳ヲ失ヒタリトモ、其國名ヲ掲グルハ至當ノ業ナルベケレド、カクテハ研究ニ涉リ、史料トシテハ妥當ヲ缺クベキ嫌ヒアルヲ以テ、本書ハ明文ノ見ユルモノ、ミヲ掲ゲ、其他ハ略シテ讀者ノ研鑽ニ任セタリ、

地震ト國名 國名ハ奥羽地方ノ、今日ハ七箇國ニ、蝦夷ハ北海道十一箇國ニ分割セラレタレバ、右ニ從テ區別シタレド、單ニ陸奥又ハ出羽ト記シ、或ハ西蝦夷ナドト有テ、明ニ何國ト定メ難キモノハ、姑ク舊名ニ從ヘリ、且畿内、關東、九州ト漫稱セルモノモ、依然舊ニ仍リタリ、

地震ト時刻 記録ニヨリテ時刻ノ書キ様一定セズ、蓋、正確ナル時計ノナキ時代ニ於テ、各、其推測ニ任セテ之ヲ記載シタルモノナレバ萬々已ムヲ得ザルコトナリ、故ニ同一地震ニテ甲ハ一日ニ記シ、乙ハ二日ニ掲ゲタル類頗ル多シ、然レドモ當時ノ慣例ハ、丑刻ヲ以テ晝夜ヲ區劃セル

定メナレバ、本書モ右ニ基キ、丑刻以前ハ前日ニ掲ゲ、其以後ハ翌日ニ載セタリ、而シテ右ノ場合ニハ、必ズ説明ヲ附シテ注意ヲ促ガセリ、

地震ノ大小 人畜死傷シ、家屋傾顛シタルモノヲ大トシ、否ラザルモノヲ小トセリ、而シテ同地方ノ地震ニ、甲ハ大地震ト記シ乙ハ單ニ地震ト書シ、及ビ甲乙二書共ニ大地震ト記シタルモノハ、普通ノ小震ト區別センガ爲ニ、假ニ強震ト認メ、地強ク震フ、或ハ地震稍強シト記シタリ、地震ノ區別 安政元年十一月四日、五日ノ大震ハ、其畿内東國ノモノト、九州四國ノモノトハ、全ク別震ナリ、然レドモ諸記録ハ均一ニ連載シテ分掲シ難キヲ以テ、今姑ク合叙シタリ、其他地方ヲ異ニシテ同日ニ二震アリタルモノハ、各々別掲セリ、

餘震 餘震ハ強震以上ハ、必ズ續發スルモノナリ、故ニ強震或ハ大震ノ下ニ合叙シタリ、
海嘯ト噴火 海嘯噴火ノ地震ト關連セルモノハ、本書之ヲ收メ、否ラザルモノハ除キタリ、

本書ノ體裁 體裁ハ東京帝國大學出版ノ大日本編年史料ニ准據シ、各地震ノ首條ニ綱文ヲ附シテ約說セリ、
本書ト編年史料 本書ハ主トシテ編年史料ノ地震記事ヲ抄

錄シ、更ニ他書ヲ涉獵シテ、其漏レタルヲ増補シ、史料ノ
缺ケタル年代ハ記錄ニ就テ檢討シタリ、

本書ト記錄新寫 本書ニ引證シタル記錄中、有益ノモノニ
テ、定本トシテ本會ニ保存セラレンコトヲ欲スルモノハ、
別ニ之ヲ謄寫セシメタリ、西肥島原大變聞錄、島原山燒山
水高波一件、淺間山燒記錄、谷陵記、弘列筆記、大島山火記
等ハ即是ナリ、

以上ノ數項ハ、本書ノ凡例トシテ、且本書ヲ繕ク人ノ注意トシ
テ、必要ト認メラル、ヲ以テ、謹テ條錄シテ劉覽ニ供セリ、
右申ス

明治三十五年八月二十五日

地震史料蒐集囑託員

田 山 實

震災豫防調查會長工學博士辰野金吾殿

* * *